

# 「無線LAN等の欧米基準試験データの活用のあり方に関する検討会」 第3回検討会

## アドホックグループ中間報告

2022年6月14日

NTTアドバンステクノロジー株式会社

## I. アドホックグループの目的

検討会の検討事項のうち、技術基準・試験方法の詳細比較に関して、検討会の構成員及びオブザーバから少人数のグループを構成し、集中的に検討を行う。

## II. 検討の進め方

以下の手順に従い検討を進める。また並行して海外動向（欧米の比較調査に関連する動向や欧米の試験レポートを受け入れている国の受入れ項目や差分対応など）を調査し、活用可能性判断の参考とする。

- |                    |   |              |                 |
|--------------------|---|--------------|-----------------|
| 1. 日欧米の比較表の精緻化     | } | 第1回会合（5月16日） | 活用不可と考えられる項目の抽出 |
| 2. 詳細比較項目の選定及びその理由 |   |              |                 |
| 3. 試験方法の詳細比較       | → | 第2回会合（6月9日）  | 詳細比較結果と活用の分類（案） |
| 4. 試験レポート記載内容の確認   | } | 第3回会合（6月末予定） | 詳細比較結果と活用の分類（案） |
| 5. 活用可能性判断         |   |              |                 |

## III. 試験項目・技術基準・試験方法の比較条件

1. 「無線の法的規則に係る技術基準及び試験方法」を検討の範囲とする
  - FCC、CEの認証の範囲である、EMCや電気安全性については対象外
  - 人体に対する安全性についても同様に対象外
2. 試験方法の“一般事項（共通）”の相違の扱い
  - 温湿度や入力電圧、試験場所等の試験環境に関する条件は考慮しない
  - 試験周波数は考慮する

## I. 詳細比較対象とする無線設備

『無線設備規則』第49条の20 に示される条件に適合する  
小電力通信システムの無線局の無線設備

『特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則』第2条第1項に掲げる

第19号 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム (2400~2483.5MHz)

1. DSSS方式に分類される : WLAN ( IEEE802.11b )
2. OFDM方式に分類される : WLAN ( IEEE802.11g/n/ax )
3. その他のデジタル変調方式に分類される : Bluetooth Low Energy ( BLE )
4. FHSS方式に分類される : Bluetooth Classic ( BDR/EDR )

第19号の3 5GHz帯小電力データ通信システム (5150~5350MHz, 5470~5730MHz)

5. OFDM方式に分類される : WLAN ( IEEE802.11a/n/ac/ax )

## II. 「欧米基準試験データ」の範囲

欧州 : 適合宣言 (自己宣言) の根拠となる、自己または試験機関による試験レポート及び付属文書に記載の  
“試験機器情報”、“試験結果”、“測定条件”、“測定データ”等

※試験機関 : 指定なし

米国 : 認証の根拠となる、試験機関による試験レポート及び付属文書に記載の  
“試験機器情報”、“試験結果”、“測定条件”、“測定データ”等

※試験機関 : FCCが認める ISO/IEC 17025 認定試験所 または TCB

※TCB (Telecommunication Certification Bodies) : FCCに代わってFCC認証を発行できるFCCから認められた試験所

日本の試験項目毎に「欧米基準試験データ」の活用の可否や活用条件を検討する。

日本の試験項目	2.4GHz帯				5GHz帯
	WLAN		BLE	BT	WLAN 11a/n/ac/ax
	11b	11g/n/ax			
周波数の偏差	○	○	○	○	○
占有周波数帯幅及び拡散帯域幅	○			○	
占有周波数帯幅		○	○		○
スプリアス発射又は不要発射の強度	○	○	○	○	○
空中線電力の偏差	○	○	○	○	○
隣接チャンネル漏えい電力及び帯域外漏えい電力					○
副次的に発する電波等の限度	○	○	○	○	○
キャリアセンス機能（占有周波数帯26MHz超、40MHz以下のOFDMのみ）		○			
送信空中線絶対利得	○	○	○	○	
送信空中線の主輻射の角度幅	○	○	○	○	
混信防止機能（識別符号）	○	○	○	○	○
ホッピング周波数滞留時間（周波数ホッピングのみ）				○	
送信バースト長					○
送信電力制御機能（TPC）					○
キャリアセンス機能					○
動的周波数選択機能（DFS）5.3GHz帯					○
動的周波数選択機能（DFS）5.6GHz帯					○

# 「欧米基準試験データ」の活用の分類案の考え方（案）

**前提として個別の試験データの日本の認証への合否は検討対象ではない。**  
**より多くのデータを活用できる可能性があるA案をベースに検討を進めている。**

## 活用の分類の考え方（A案）

分類	「欧米基準試験データ」の活用の分類の考え方（A案）
活用可	欧米の試験方法による測定データが、日本の技術基準（許容値）に対して、同一 又は より厳しい評価結果となる試験方法で得られた測定データの場合（測定データを換算して評価する場合も含む）
条件付き活用可	欧米の試験方法による測定データが、ある条件を満たすことで日本の技術基準（許容値）に対して、同一 又は より厳しい評価結果となる試験方法で得られた測定データの場合（測定データを換算して評価する場合も含む）
活用不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本が求める試験データに対応する欧米の試験方法による測定データがない場合</li> <li>② 日本が求める試験データに対応する欧米の試験方法による測定データがある場合でも物理量の定義が異なり測定データを換算するなどしても評価できない場合</li> <li>③ 日本の技術基準（許容値）に対して、緩い評価結果となる試験方法で得られた測定データの場合、かつ補正等などによる条件を付けることもできない場合（測定データを換算して評価する場合も含む）</li> </ul>

## 活用の分類の考え方（B案）

分類	「欧米基準試験データ」の活用の分類の考え方（B案）
活用可	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 欧米の試験方法が日本の試験方法と同一であり、日本の技術基準に対してそのまま評価可能な測定データの場合</li> <li>② 欧米の試験方法が日本の試験方法と異なる場合でも、日本の技術基準に対して換算して評価可能な測定データの場合</li> </ul>
条件付き活用可	「活用可」に分類できない測定データの場合でも、試験項目ごとに示す条件を満たすことで日本の技術基準に対して評価可能となる測定データの場合
活用不可	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本の技術基準に対して評価可能な測定データがない場合</li> <li>② 日本の技術基準に対して換算や条件を付すなどしても評価できない測定データの場合</li> </ul>

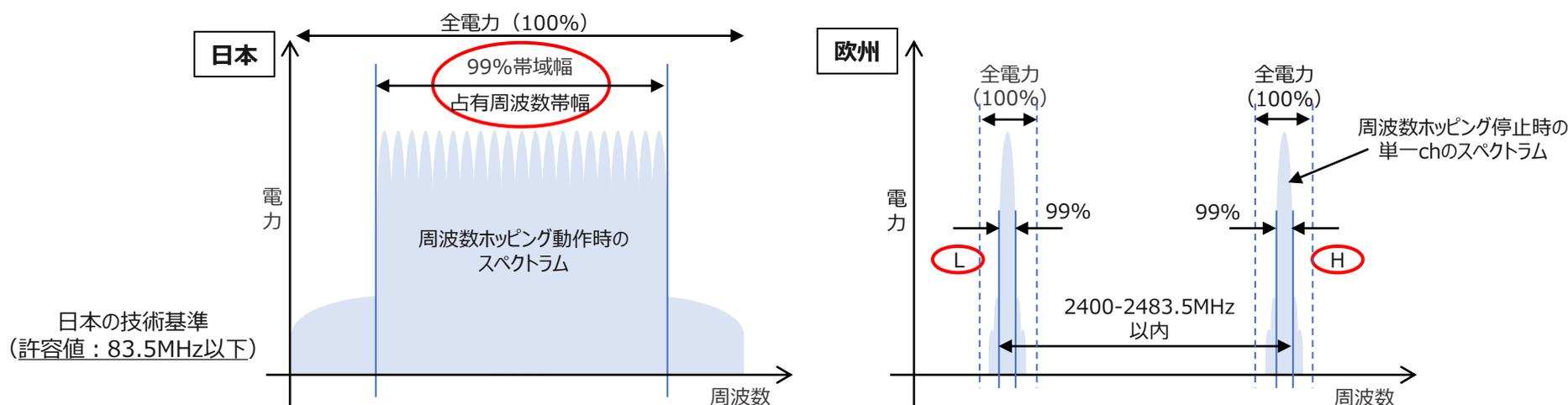
## 活用の分類の考え方（A案）の「活用 可」

欧米の試験方法による測定データが、日本の技術基準（許容値）に対して、同一 又は より厳しい評価結果となる試験方法で得られた測定データの場合（測定データを換算して評価する場合も含む）。

## 活用の分類の考え方（B案）の「活用 可」

- ① 欧米の試験方法が日本の試験方法と同一であり、日本の技術基準に対してそのまま評価可能な測定データの場合
- ② 欧米の試験方法が日本の試験方法と異なる場合でも、日本の技術基準に対して換算して評価可能な測定データの場合

### 「活用 可」の考え方によって分類が変わる例（Bluetooth Classic の 占有周波数帯幅）



試験方法が異なり、かつ換算もできないことから日本の技術基準に対して評価できない。  
ただし、日本の技術基準（許容値以下）の要求に対して、欧州の試験方法による測定データは  
“必ず日本の試験方法による測定データよりも大きく”なることから、より厳しい評価となると考えられる。

→ 活用の分類の考え方（A案）の場合：「活用 可」

→ 活用の分類の考え方（B案）の場合：「活用 可」とはならない

## **【参考資料】 Bluetooth Classic と BLE**

## I. Bluetoothとは

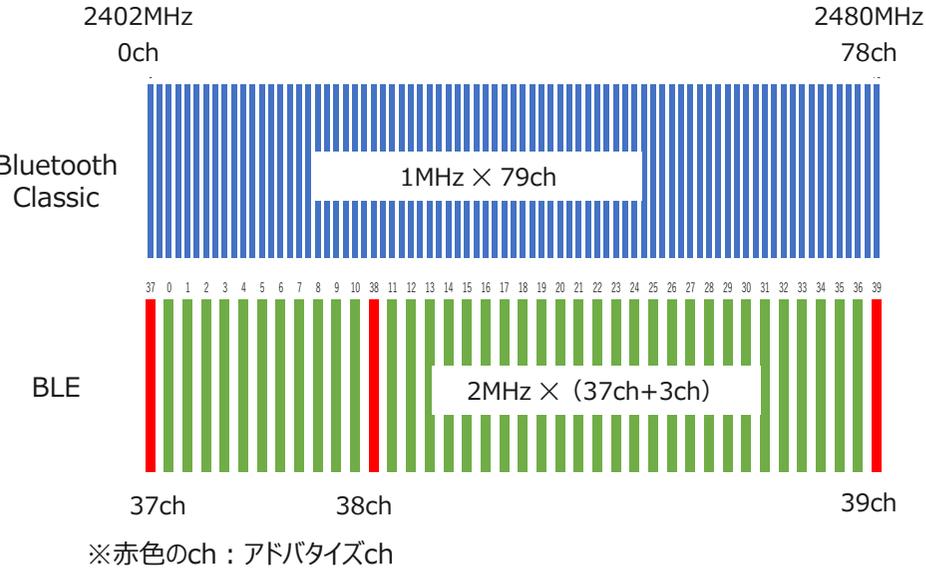
Bluetoothは、PCと周辺機器（ヘッドセット、マウス、キーボード等）を無線接続するための2.4GHz帯を用いた近距離無線通信技術のひとつであり、1999年に規格化され広く普及している。

## II. 分類と方式及び主な用途

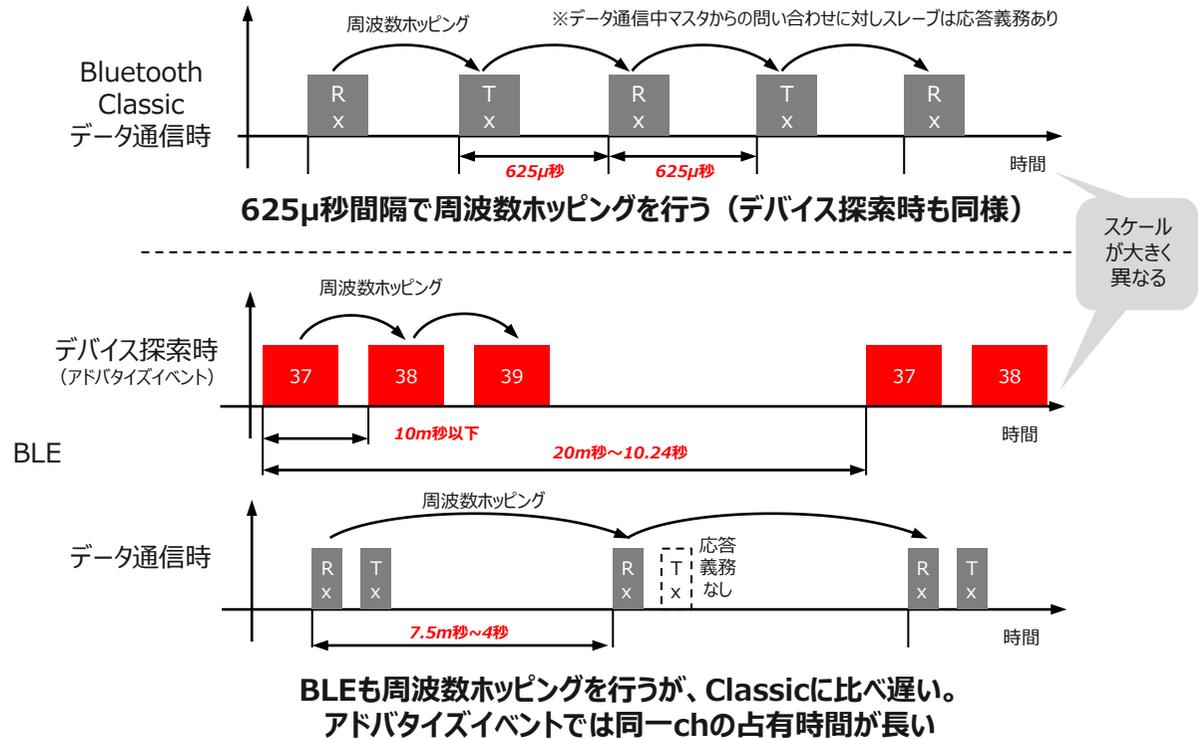
分類	方式		チャンネル数	周波数ホッピングの時間間隔	出力	用途	備考
Bluetooth Classic	<b>BDR</b>	Basic Data Rate	Inquiry Scan ch : 32ch データch : 79ch	<b>625μ秒</b>	Class1:100mW Class2:2.5mW Class3:1mW	ヘッドセット、オーディオ、マウス、キーボード	<b>音声伝送</b> 小容量データ通信 不向き
	<b>EDR</b>	Enhanced Data Rate					
BLE	<b>LE</b>	Low Energy	アダプタイズch : 3ch データch : 37ch	<b>アダプタイズch : 10m秒以下 データch : 7.5m秒~4秒</b>	10mW	小容量データ通信、マウス、キーボード、ビーコン、ウェアラブル機器、IoT機器	<b>低消費電力</b> 音声伝送 不向き

※Bluetooth Classic と BLE は PHY/MAC層の違いにより互換性がない  
 ※Ver 3.0から追加されVer 5.3で廃止されたHS : High Speed方式は記載省略

## III. 帯域幅とチャンネル配置



## IV. 周波数ホッピングの時間間隔とch占有時間



## V. バージョンごとの対応方式

策定年	規格	必須方式	オプション方式	備考
1999年	Ver 1.X	BDR		
2004年	Ver 2.X	BDR	EDR	EDRの追加
2009年	Ver 3.X	BDR	EDR / HS	HSの追加
2010年	Ver 4.X	無	BDR / EDR / HS / LE	LEの追加
2016年	Ver 5.X	無	BDR / EDR / HS / LE	
2020年	Ver 5.2	無	BDR / EDR / HS / LE	LE Audioの追加
2021年	Ver 5.3	無	BDR / EDR / LE	HSの廃止

- i. BDR/EDR と LE では、互換性はない
- ii. バージョンが新しい機器 = BLEではなく、Ver4以降の方式は選択式
- iii. **BDR/EDR方式は、現在でも音声伝送用途で認証取得件数が多い**
- iv. **Ver5.2以降、BLEでも音声を容易に扱えるようになったが、BDR/EDR方式も継続して採用されていくと考えられる。**

## VI. 日欧米での Bluetooth Classic と BLE の技術基準

- i. 日本：無線設備規則 第49条の20（小電力データ通信システムの無線局の無線設備）変調方式の条件  
OFDM方式、DSSS方式、FHSS方式、FHSS方式+DSSS方式、OFDM方式+FHSS方式、その他のデジタル変調方式  
Classic：“FHSS方式”  
LE：IVに示したアダプタイズイベント時の滞留時間が長いことからFHSS方式に当てはまらず“その他のデジタル変調方式”に該当し  
適合すべき技術基準は一部を除きOFDM方式、DSSS方式と同じ
- ii. 欧州：ETSI EN 300 328 V2.2.2. 4.2 Equipment type 4.2.1 Wideband Data Transmission equipment typeより  
Classic：“FHSS equipment”  
LE：FHSS方式の規定である ch滞留時間やホッピング数等の規定に適合しないことから“non-FHSS equipment”（WLAN機器も含む）
- iii. 米国：FCC KDB558074 D01 15.247 Meas Guidance v05r02 11. FREQUENTLY ASKED QUESTIONS Answer7 より  
Classic：“FHSS”の規定に準拠する必要がある。  
LE：アダプタイズ動作時の周波数ホッピング数が“FHSS”の規定に満たないため、  
“DTS：Digital Transmission System”の規定に準拠する必要がある。（WLAN機器も含む）

**BLE は 日欧米ともに適合すべき技術基準がWLAN機器と同じに分類されている**

## 2.4GHz WLAN/BLE

### 第19号 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム(2400~2483.5MHz)

- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. DSSS方式に分類される       | : WLAN ( IEEE802.11b )        |
| 2. OFDM方式に分類される       | : WLAN ( IEEE802.11g/n/ax )   |
| 3. その他のデジタル変調方式に分類される | : Bluetooth Low Energy (BLE)  |
| 4. FHSS方式に分類される       | : Bluetooth Classic (BDR/EDR) |

活用可		条件付き活用可		活用不可		検討中			
試験項目	日本		欧州		米国				
	技術基準		試験方法		技術基準			試験方法	
	・無線設備規則 ・証明規則		別表第43		EN 300 328 V2.2.2			FCC Part 15 Subpart C ANSI C63.10:2013 +KDB 558074	
周波数の偏差	許容偏差：±50×10 <sup>-6</sup> 以内		(三) (十五)		規定なし	—	規定なし	—	
占有周波数帯幅及び拡散帯域幅									
占有周波数帯幅	WLAN 11b / BLE : 26MHz以下 WLAN 11g/n HT20/ax HE20 : 26MHz以下 WLAN 11n HT40/ax HE40 : 40MHz以下		(四) (十六) 99%帯域幅		4.3.2.7	5.4.7	規定なし	例示 —	
拡散帯域幅 WLAN 11bのみ	500kHz以上 拡散率：5以上（拡散率：拡散帯域幅を変調速度で除した値）		(四) (十六) 90%帯域幅		規定なし	—	15.247(a)(2)	11.8 KDB558074-8.2	
スプリアス発射又は不要発射の強度									
不要発射の強度	2387MHz未満 : 2.5uW/MHz以下 2387MHz以上 2400MHz未満 : 25uW/MHz以下 2483.5MHz超 2496.5MHz以下 : 25uW/MHz以下 2496.5MHz超 : 2.5uW/MHz以下		(五) (十七) 別表第1		4.3.2.8 4.3.2.9	5.4.8 5.4.9	15.247(d) 15.205(a) 15.209(a)	11.11 11.12 6.4 6.5 6.6 6.10.4	
空中線電力の偏差									
空中線電力の偏差	工事設計書記載の定格値に対して 上限+20%, 下限-80%				規定なし	—	規定なし	—	
空中線電力	BLE : 10mW以下 WLAN 11b : 10mW/MHz以下 WLAN 11b以外 26MHz以下 : 10mW/MHz以下 40MHz以下 : 5mW/MHz以下		(六) (十八)		4.3.2.2 4.3.2.3	5.4.2 5.4.3	15.247(b)(3) 15.247(e)	11.9 11.10 KDB558074 2.1/8.3.2	
副次的に発する電波等の限度	1GHz未満 : 4nW以下 1GHz以上10GHz未満 : 20nW以下 10GHz以上 : 20nW以下		(七) (十九)		4.3.2.10	5.4.10	規定なし	—	
キャリアセンス機能 (1)	WLAN 11g/n/ax : 要 40MHz上記以外 : 規定なし		(八) (二十)		4.3.2.6	5.4.6	規定なし	—	
送信空中線絶対利得	12.14dBi以下 但しEIRPが12.14dBiの送信空中線に平均電力10mWの空中線電力を加えたとき以下の値となるときは、その低下分を補うことができる。		(十) *EIRP12.14dBm以下の場合は適用しない		規定なし	—	15.203 15.247(b)(4)	仕様確認のみ	
送信空中線の主輻射の角度幅	送信空中線の水平及び垂直面の主輻射の角度の幅は360/A*度を超えないこと。A* EIRPを2.14dBiの送信空中線に平均電力10mW/MHzを加えたときの値で除したものを、1を下回るときは1とする。		(十一) (二十二) *EIRP12.14dBm以下の場合は適用しない		規定なし	—	規定なし	—	
混信防止機能	識別符号を自動的に送信し、又は受信する機能を有すること。		(十二) (二十三)		規定なし	—	規定なし	—	

## 2.4GHz BT

### 第19号 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム(2400~2483.5MHz)

- |                       |                               |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. DSSS方式に分類される       | : WLAN ( IEEE802.11b )        |
| 2. OFDM方式に分類される       | : WLAN ( IEEE802.11g/n/ax )   |
| 3. その他のデジタル変調方式に分類される | : Bluetooth Low Energy (BLE)  |
| 4. FHSS方式に分類される       | : Bluetooth Classic (BDR/EDR) |

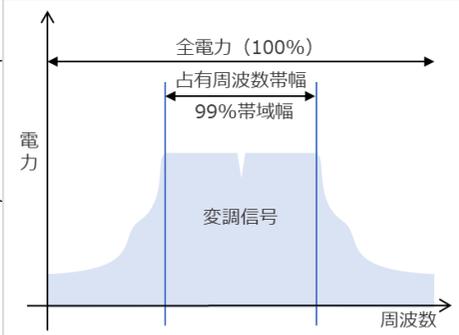
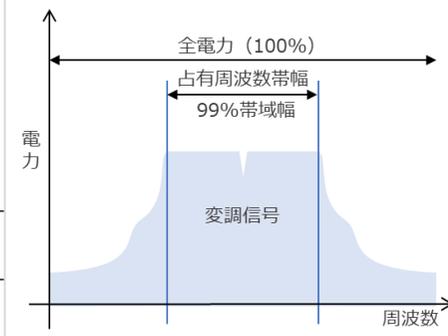
試験項目	活用可		条件付き活用可		活用不可		検討中	
	日本		欧州		米国			
	技術基準 ・無線設備規則 ・証明規則	試験方法	技術基準 & 試験方法	技術基準	試験方法			
周波数の偏差	許容偏差：±50×10 <sup>-6</sup> 以内		(三) (十五)	規定なし	—	規定なし	—	
占有周波数帯幅及び拡散帯域幅								
占有周波数帯幅	83.5MHz以下		(四) (十六) 99%帯域幅	4.3.1.8	5.4.7	15.247(a)(1)	6.9.2 7.8.2	
拡散帯域幅	500kHz以上 拡散率：5以上（拡散率：拡散帯域幅を変調速度で除した値）		(四) (十六) 90%帯域幅	4.3.1.4	5.4.4	15.247(a)(1)(iii)	7.8.3 *仕様確認のみ	
スプリアス発射又は不要発射の強度								
不要発射の強度	2,387MHz未満 : 2.5uW/MHz以下 2,387MHz以上 2,400MHz未満 : 25uW/MHz以下 2,483.5MHz超 2,496.5MHz以下 : 25uW/MHz以下 2,496.5MHz超 : 2.5uW/MHz以下		(五) (十七) 別表第1	4.3.1.9 4.3.1.10	5.4.8 5.4.9	15.247(d) 15.205(a) 15.209(a)	7.8.8 6.4 6.5 6.6 6.10.4	
空中線電力の偏差								
空中線電力の偏差	上限+20%, 下限-80%		(六) (十八)	規定なし	—	規定なし	—	
空中線電力	3mW/MHz以下			4.3.1.2	5.4.2	15.247 (a)(1) 15.247 (b)(1)	7.8.5	
副次的に発する電波等の限度	1GHz未満 : 4nW以下 1GHz以上10GHz未満 : 20nW以下 10GHz以上 : 20nW以下		(七) (十九)	4.3.2.11	5.4.10	規定なし	—	
キャリアセンス機能（1）	—		—	—	—	—	—	
送信空中線絶対利得	12.14dBi以下 但しEIRPが12.14dBiの送信空中線に平均電力10mWの空中線電力を加えたとき以下の値となるときは、その低下分を補うことができる。		(十) *EIRP12.14dBm以下 の場合は適用しない	規定なし	—	15.203 15.247(b)(4)	*仕様確認のみ	
送信空中線の主輻射の角度幅	送信空中線の水平及び垂直面の主輻射の角度の幅は360/A*度を超えないこと。A* EIRPを2.14dBiの送信空中線に平均電力10mW/MHzを加えたときの値で除したもの。1を下回るときは1とする。		(十一) (二十二) *EIRP12.14dBm以下 の場合は適用しない	規定なし	—	規定なし	—	
混信防止機能	識別符号を自動的に送信し、又は受信する機能を有すること。		(十二) (二十三)	規定なし	—	規定なし	—	
パルス周波数滞留時間	0.4秒以下 かつ 0.4秒に拡散率を乗じた時間内で任意の周波数での周波数滞留時間の合計が0.4秒以下		(十三) (二十四)	4.3.1.4	5.4.4	§ 15.247 (a)(1)(iii)	7.8.4	

## 5GHz WLAN

### 第19号の3 5GHz帯小電力データ通信システム（5150～5350MHz, 5470～5730MHz）

5. OFDM方式に分類される：WLAN（IEEE802.11a/n/ac/ax）

活用可		条件付き活用可		活用不可		検討中		
試験項目	日本			欧州		米国		
	技術基準		試験方法	技術基準 & 試験方法		技術基準	試験方法	
	・無線設備規則 ・証明規則		別表第45	EN 301 893 V2.1.1		FCC Part 15 Subpart E	ANSI C63.10:2013	
周波数の偏差	許容偏差：±20×10 <sup>-6</sup> 以内			(三) (十六)	4.2.1	5.4.2	15.407(g)	仕様確認のみ (6.8)
占有周波数帯幅	20MHzシステム : 20MHz以下 40MHzシステム : 40MHz以下 80MHzシステム : 80MHz以下 160MHzシステム : 160MHz以下		(四) (十七) 99%帯域幅	4.2.2	5.4.3	15.407(a) 15.407(g)	(KDB789033-II.C.1.)	
スプリアス発射又は不要発射の強度								
不要発射の等価等方輻射電力		省略		(五) (十八)	4.2.4.1	5.4.5	15.205(a)/15.209(a) 15.407(b) (1),(2),(3)	KDB789033-G KDB662911
不要発射(帯域外漏えい電力)の等価等方輻射電力		省略		(五) (十八)	規定なし	-		
空中線電力の偏差								
空中線電力の偏差	W52/W53 : 上限+20%,下限-80%, W56 : 上限+50%,下限-50%			(六) (十九)	規定なし	-	規定なし	-
空中線電力	20MHzシステム : 10mW/MHz以下 40MHzシステム : 5mW/MHz以下 80MHzシステム : 2.5mW/MHz以下 160MHzシステム : 1.25mW/MHz以下 80+80MHzシステム : 1.25mW/MHz以下				規定なし	-	W52 15.407(a)(1) W53/W56 15.407(a)(2)	KDB789033-E KDB789033-F KDB662911
隣接チャンネル漏えい電力及び帯域外漏えい電力								
隣接チャンネル漏えい電力		省略		(七) (二十)	4.2.4.2	5.4.6	規定なし	-
副次的に発する電波等の限度		1GHz未満 : 4nW以下 1GHz以上 : 20nW以下		(八) (二十一)	4.2.5	5.4.7	規定なし	-
混信防止機能		識別符号を自動的に送信し、又は受信する機能を有すること。		(九) (二十二)	規定なし	-	規定なし	-
送信バースト長		8ms以下		(十) (二十三)	4.2.7	5.4.9	規定なし	-
送信電力制御機能 (TPC)								
等価等方輻射電力	W52 W53	20MHzシステム : 10mW/MHz以下 (5mW/MHz以下) 40MHzシステム : 5mW/MHz以下 (2.5mW/MHz以下) 80MHzシステム : 2.5mW/MHz以下 (1.25mW/MHz以下) 160MHzシステム : 1.25mW/MHz以下 (0.625mW/MHz以下) 80+80MHzシステム : 1.25mW/MHz以下 (0.625mW/MHz以下)		(十一) (二十四)	4.2.3	5.4.4	15.407(h)(1)  W52 15.407(a)(1) W53/W56 15.407(a)(2)	12.3  KDB789033-E KDB789033-F KDB662911
*カッコ内 TPC無時	W56	20MHzシステム : 50mW/MHz以下 (25mW/MHz以下) 40MHzシステム : 25mW/MHz以下 (12.5mW/MHz以下) 80MHzシステム : 12.5mW/MHz以下 (6.25mW/MHz以下) 160MHzシステム : 6.25mW/MHz以下 (3.125mW/MHz以下) 80+80MHzシステム : 1.25mW/MHz以下 (0.625mW/MHz以下)						
キャリアセンス機能①		100mW/mを超える場合に電波の発射を行わないこと		(十二) (二十五)	4.2.7	5.4.9	規定なし	-
キャリアセンス機能② (DFS) (W53のみ)		省略		(十三) (二十六)	4.2.6	5.4.8	15.407(h)(2)	KDB905462
キャリアセンス機能③ (DFS) (W56のみ)		省略		(十三) (二十七)				

		日本	米国
定義		占有周波数帯幅：単一chの99%帯域幅	
技術基準		WLAN 11b / BLE : 26MHz以下 WLAN 11g/n HT20/ax HE20 : 26MHz以下 WLAN 11n HT40/ax HE40 : 40MHz以下	<b>規定なし</b> ※ただし“最大出力電力”や“パワースペクトル密度”の測定方法の中にOBW（99%帯域幅）の測定値を用いる方法があり、当該測定方法を用いている場合、試験レポートにOBWの測定データが示されることがある。
試験種別		伝導試験（アンテナ一体型は放射試験）	伝導試験（放射試験も可）
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数（LMH）	“最大出力電力”や“パワースペクトル密度”の条件と同じである場合：動作chのうち、最高、中間及び最低の3波で測定を実施（LMH）
	EUT	出力：規定なし 動作：単一chでの連続またはバースト出力（OFDMでバースト波の場合は、副搬送波の数が少ない状態の時間の割合が最小となる変調状態（ショートプリアンプル）とする） 変調：標準符号化試験信号で変調	“最大出力電力”や“パワースペクトル密度”の条件と同じである場合： 出力：最大出力電力状態 動作：単一chでの出力状態の ①連続送信状態 ②バースト送信状態（ディューティサイクルが一定） ③バースト送信状態（ディューティサイクルが変動） 変調等：最大出力電力状態
	測定機器	スペアナの設定 CenterFreq.：試験周波数 <b>SPAN：許容値の約2倍～約3.5倍</b> <b>(WLAN 11b/g/n HT20 /ax HE20 / BLE：52MHz～91MHz)</b> (WLAN 11n HT40 /ax HE40：80MHz～140MHz) RBW：許容値の3%以下 VBW：RBWと同程度 SWT：測定精度が保証される最小時間（WLAN 11g/n/ax：1サンプル最低1バースト） <b>Detector：Pos Peak（OFDMでバースト以外：Sample）</b> Trace：MAX Hold（OFDMでバースト以外：10回平均値）	“最大出力電力”や“パワースペクトル密度”の条件と同じである場合： スペアナの設定 Mode：帯域内電力測定機能（99%帯域幅の測定設定）を用いる CenterFreq.：chのLMHの中心周波数 <b>SPAN：1.5×OBW～5×OBW</b> RBW：OBWの1%～5% VBW：3×RBW <b>Detector：Sample 又は peak</b> Trace：シングルスイープ 又は MAX Hold（安定するまで）
測定概要	表示に変化が認められなくなるまで掃引を繰り返した後に99%帯域幅を測定する。		
試験結果の記載方法	占有周波数帯幅（単位：MHz） 	99%帯域幅（単位：MHz）の測定画面 	
データ活用可否および条件(案)		<p><b>条件付き 活用可（以下の条件全てを満たすこと）</b></p> <p>条件1：ANSI C63.10 6.9.3に規定される測定法によるOBWの測定データが試験レポートに含まれている場合</p> <p>条件2：SPAN/RBW設定が日本の設定値範囲内である場合</p> <p>条件3：Detector/Trace設定が Peak/MAX Hold設定である場合</p>	
備考		 <b>現時点での分類案・条件案</b>	